

2011年度「東光会のつどい」クラス幹事と会員の懇談会

日時：2011年11月5日（土）14：00－15：30

講演「被災地に寄り添って」

鳥居坂教会牧師 張田眞先生

3月11日の震災の東北の津波の被害と救援支援について、スライドを使ってお話くださいました。

津波の被害を受けた地域に日本キリスト教団は少なく、キリスト教の教会全体としても多くない地域です。

津波発生2日後に、日本キリスト教団議長石橋先生をはじめとする何人かで自動車を連ねて被災地を訪ねました。まだガソリンも十分に行き渡らず、混乱のさなかで、無事に帰ってこられるかもわからない状況でしたが、現地に向かって出発しました。その時に撮影した写真でこのスライドが構成されています。

宮古教会は、津波が届く先端に位置していたため、津波は受けたが建物は残っている状態でした。床上まで浸水し、津波が引くと、ヘドロのような泥が残り、ひどい臭いがしていました。しかし、ありがたいことに、近くのYMCAとカリタスジャパンの方々がすぐに駆けつけてくださり、礼拝堂の掃除や整備をしてくださいました。その後、この教会がベースキャンプのように用いられ、地域の方々への支援をしました。それを日本キリスト教団全体で支えています。

釜石市の新生釜石教会は、2階まで達する津波の被害がありました。ここでは、色々なところから送られてくる物の配給や、仕分けをしました。また、大阪の淀川キリスト教病院から救急設備の付いた自動車で数人の医師が来て交代で駐在し、医療活動がなされました。また、この教会の牧師先生は大変熱心な方で、教会の外にテントを張り、町の人々が立ち寄り、懇談するなかで、相談を受け、カウンセリングのような働きをされていました。

大船渡教会は、幸い高台に立地し、直接の津波被害を受けなかったため、支援の物資がこの教会に集められ、この教会から配置されました。また、地域の方々のための小さなお祭りのようなものを開き、励ましを与える働きをしました。

宮城県石巻栄光教会は、隣接している幼稚園に津波が押し寄せ、園庭がドロドロになりましたが、ボランティアの方々が来てくださり、園庭の土を排除し、臭いが緩和し、幼稚園の建物の中も掃除されました。同時にそこを拠点として地域の方々への物資の配給をすることができました。そして何よりも幼稚園の再開が大きな問題でした。4月にこの幼稚園を訪ねましたが、その時はまだ卒園式も、ましてや入園式などとても出来ない状態でしたが、5月になり、幼稚園が再開されましたことは、大変な状況の中にいるご両親にとっても助けになっています。

石巻栄光教会の教会員の方々は普段からさまざまなボランティア活動に携わってこられ、広範なネットワークをお持ちでありました。日本キリスト教団はこの石巻に支援センターを設立し、地域の方々への支援の中心となっています。

－地震直後の写真から－

- ①陸前高田市の町のようす。
- ②塩釜にある教会で持っていった灯油をお分けしているようす。
- ③・二人の男性の写真－仙台から石巻周辺に出張に来ていたとき津波に遭遇し、漂流する木造家屋の屋根で寒い一夜を過ごして救出された方々です。石巻栄光教会の教会員がお世話をしていたところに日本キリスト教団の最初の訪問団がきました。そして仙台まで車にお乗せすることができました。
  - ・仙台の会社に戻って再会を祝っているようす。通信手段が無かったため、皆大変心配していました。
- ④ 二度目に訪問した時の陸前高田市の町の写真－自衛隊の方々を中心に、ご生存者やご遺体を探しているようす。亡くなった方々の凄惨なお姿、またご遺体を葬るためのご苦労など、大変な状況であったことは想像に難くありません。

被災地に教団議長一行が訪れ、このような状況の中で、日本キリスト教団の支援活動が始まっていくことになりました。

現在、この地域に二つの支援センターが新設されています。もともと仙台に東北教区エマオというセンターがあり、そこで始めのころは活動をしていましたが、石巻に支援センターを新設し、また津波被害を受けた海岸の町、宮古、釜石、大船渡に等距離に位置する、岩手県の内陸、遠野という町にも支援センターを新設しました。そのセンターには、自殺防止センターがあり、命の電話が開設され、電話による相談を受け、話を聞くことによって励ましとさせていただけるよう働きをしています。教団と自殺防止センターが協力してこの働きが始まっています。

その他の活動や予定については教団の救援本部 HP に紹介があります。

なお、2つのことを短く付け加えさせていただきます。

1つは、障がいを持つ方々が抱えている困難です。安心して身を置く所が必要ですし、ケアを必要としています。関連しますが、2つ目のこととして教会が教会としての日常を取り戻すという課題があります。ご紹介したように被災地にある教会は諸団体と協力して緊急の救援活動にあたり、また、ボランティアの基地として用いられてもいますが、それが長く続いており、小さな教会ですから礼拝と祈りの場としての落ち着きがどうしても失われてしまいがちだからです。

本日の題が、「被災地に寄り添って」とありますが、皆さんと一緒に被災地のことを忘れないで、被災された方々のことを心のうちに祈り続けていきたい。教会もそのようにありたいと願っています。

日本基督教団の復興・支援計画、現在の状況は、教団のホームページに詳しく掲載されています。

<http://uccj-jishin.jpn.org/>

<http://uccj-s.org/>